
鎌のお姉さん

緒方 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鎌のお姉さん

【ZPDF】

Z9635F

【作者名】

緒方 零

【あらすじ】

小さい頃教えてもらった怖い話。それは魂を狩るお姉さん。そんな話も忘れ平凡に過ぎていたが・・・?

ある昔・・・

おばあちゃんから聞かされたお話。

後ろに長い棒を背負つた女人に話しかけられたら、すぐ逃げな
さい。

にげるの？ なんで？

長い棒はね、人の魂を狩る“鎌”なんだよ。

たましいをかる、かま？

大きくなつたら分かる日が来るわ。忘れちゃいけないよ、それの
名前は・・・

「ヒギ・・・・、東土木！！」

なんか、呼ばれてる?

今は国語の授業でボーッとしてたら眠くなつて・・・、寝た。

寝たあああ！？

「えつ？」

案の定、起きると国語の先生が仁王立ちしていつかを見ている。
うわー、何で寝ちゃったんだろ。

「東土木！！廊下に立つてやるーーー！」

「はーーー・・・・」

私は廊下に出た。

「うわあ・・・、やむつ

今は真冬。

暖房が効いた教室とは違い、廊下は肌寒い。
しかも授業中のせいか、廊下は静まりかえっている。

「マジついてない・・・。にしても、あの夢はなんだつたんだろう?」

懐かしさを感じる夢。

鎌とか、女人の人とか言ってたような?

「名前?」

何の名前?

まあ、関係ないし。

キーンゴーンカーンゴーン

「やつと終わった」

ドアから先生が出て行くのを確認し、私は教室内に戻る。職員室に呼び出しなんていやだ。なんたって私は常連なのだ。

「真奈美い、またあ？」

席に着くと、前の席の斎藤鈴華サイツウ レイカが話しかけてきた。ちょっと、いやかなりミーハーでブリッコだが優しい子。いまではお互い相談までする仲なのだ。

「まだだよ。だつて眠くなるじやん」

「まあね。真奈美の気持ちも分かるけどわあ」

「鈴華、サボるつか？」

「ええ？私はあ、いいよ。次は社会だしね」

「ああ、そつか。じゃあ、私は帰るわ」

「バイバイ、真奈美」

鐘が鳴る前に私は鞄を持って玄関まで走った。
早くしないと担任に捕まってしまう。

なんとか先生に見つからず走り抜けた。そのまま鞄を履いて門まで。

「やつぱり閉まってるかあ・・・」

門に行くと閉まってる。
けど、私には関係ない。
鞄を門の向こう側に投げて私は門を飛び越えた。

「うへへ」

そのまま家に向かつて歩き出す。

「あ、れ?」この道って、こんなに人通りがなかつたっけ?」

商店街並の大きな道。

それなのに、人が歩いてない。もちろん動物もいない。
なにか、おかしい。と思つたときにはもう遅かつた。

「長い棒に女?」

夢に出てた幽靈?

確か、魂を狩る鎌だつたような・・・。

「あなたのたまし」、おにしそうね

「おにしへないです!」

「わたしにたましをくれない?」

「えつー?」

その時にはもう、女は鎌を振り上げていた。

反射的に私はそれを避ける。

「こつこいつたときはどうするんだっけ?
どうやって逃げるんだっけ?

考えていたら、鎌が左腕に刺さった。

「(せせり)」

思いつき手をひく。

血はでてない。傷もついてない。

ただ、・・・感覚がなくなっていた・・・。

「あなたはもうひだりでをなくした。あとはしんせいのま

「やめてー・鈴華ーー」

言つた瞬間、鎌は私の心臓に刺さった。

なぜか、鈴華の名前が出た。気配が鈴華に似ていたから・・・。

そのまま私は倒れた。

「真奈美のたましいはやつぱつおいしいわね」

その女は姿を消した。

真奈美は救急車で運ばれたが、もう既に息はしていなかった。

学校の屋上。

そこには鈴華の姿が。

「真奈美い、魂ありがとねえ。おいしかったよお

鎌のお姉さん。

名前は『魂狩りの鈴華』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9635f/>

鎌のお姉さん

2010年10月11日00時39分発行